

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地		
麻生情報ビジネス専門学校		昭和60年12月24日	竹口 伸一郎		〒812-0016 福岡市博多区博多駅南2-12-32 (電話) 092-415-2291		
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地		
学校法人 麻生塾		昭和26年3月12日	理事長 麻生 健		〒820-0018 福岡県飯塚市芳雄町3-83 (電話) 0948-25-5999		
目的	機械や機器に組み込まれるソフトウェアを開発するエンジニアを育成する。プログラマーとして必要な基礎知識と、組み込みソフトウェア開発に必要な専門的な知識を中心に学習する。						
分野	課程名	学科名		専門士	高度専門士		
工業	工業専門課程	組込みシステム科		平成21年 文部科学大臣告示 第21号	-		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
	3年						
単位時間							
生徒総定員		生徒実員		専任教員数	兼任教員数		総教員数
60人		29人		3人	3人		6人
学期制度	■前期：4月1日から8月31日 ■後期：9月1日から3月31日		成績評価		■成績表： 有 ■成績評価の基準・方法 学期末試験、出席状況、授業態度 確認テストなどの総合評価		
長期休み	■夏期休業：8月5日から8月31日 ■冬期休業：12月24日から1月8日 ■春期休業：3月1日から4月8日		卒業・進級 条件		ア. 指定科目全ての修得 イ. 学年の出席率90% ウ. 卒業基準検定の取得 エ. 学生としてふさわしい生活態度		
生徒指導	■クラス担任制： 有 ■長期欠席者への指導等の対応 面談、保護者への電話連絡		課外活動		■課外活動の種類 ボランティア活動		
					■サークル活動： 有		
就職等の 状況	■主な就職先、業界等 情報サービス業		主な資格・ 検定等		基本情報技術者試験 組込みソフトウェア技術者試験グレードB		
	■就職率 ^{※1} : 90 %						
	■卒業者に占める就職者の割合 ^{※2} : 100 %						
	■その他						
(平成 28 年度卒業者にに関する 平成29年4月1日 時点の情報)							
中途退学 の現状	■中途退学者 3名 平成28年5月1日時点において 在学者 28名 (平成28年4月入学者を含む) 平成29年3月31日時点において 在学者 25名 (平成29年3月卒業者を含む) ※ 中途転入者・転出者 なし		■中退率 10.7 %				
	■中途退学の主な理由 他分野への進路変更						
	■中退防止のための取組 入学説明会での職種およびカリキュラムに関する説明、定期的な面談						
ホームページ	URL: http://www.asojuku.ac.jp/abcc/						

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

教員が定期的に企業訪問を行い、IT業界の動向や即戦力育成のために必要となる知識や技術などを把握する目的で企業に所属しているエンジニアに対して業界動向や新技術のヒアリングを実施する。さらに、当校での就職をサポートしている部署が企業に対してアンケートを実施し、それらの結果を元に、授業科目の開設・変更・廃止に関する検討を行う。カリキュラム会議で授業内容や方法に関して話し合い、カリキュラム案を作成、教育課程編成委員会で(1)カリキュラムの企画・運営・評価に関する事項(2)各授業科目の内容・方法の充実及び改善に関する事項(3)教科書・教材の選定に関する事項(4)その他教員としての資質能力の育成に必要な研修に関する事項に関して、各方面からの意見を集約し承認を得て授業科目の開設や方法の改善としてまとめる。使用するハードウェアやソフトウェアに関しては、授業運営を実践するために必要となるものを準備して効果的に授業を実施する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

学校内部の組織として、カリキュラム会議を運営し、カリキュラムのベースとなる案を作成する。前年度の報告と作成したカリキュラム案を元に教育課程編成委員会がカリキュラム改善に向けた意見を提案する。それらの意見を踏まえてカリキュラム会議を実施し新しいカリキュラムを検討し作成する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
馬場 伸一	NPO法人九州組込みソフトウェアコンソーシアム 事務局長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	①
芦原 秀一	株式会社ネットワーク応用技術研究所 取締役	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	③
小畑 昌之	安川情報システム株式会社 ソフトウェア研究開発センター 課長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	③
竹口 伸一郎	麻生情報ビジネス専門学校 校長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	
荒木 俊弘	麻生情報ビジネス専門学校 校長代行	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	
山下 文夫	麻生情報ビジネス専門学校 リーダ	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

原則：年度毎に2回実施

第1回 7月：前年度カリキュラムについて

第2回12月：1回目を受けて修正案説明(次年度カリキュラム)

(開催日時)

平成28年度 第1回 平成28年7月20日 16:30～17:30

平成28年度 第2回 平成28年10月28日 16:30～18:30

平成29年度 第1回 平成29年6月30日(予定)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

意見交換では新しい技術の取り組みについてニーズが高いという業界動向の話を受けた。小型マイコンや画像認識、IoT、AIなどの新しい技術をカリキュラムに取り入れることを検討する。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

総合的な人間教育として、深く幅広い知識と教養を身につけることにより、社会の変化に対応できる良識とスキルを習得させる。常に挑戦する意欲に満ちた専門職業人として、社会で中核的役割を果たすに足る専門的な知識や技能を習得させるべく、企業・業界団体からの意見、アドバイス、要望などを授業内容や授業方法等に取り入れ、より実践的な知識や技能を就業前に習得する事で即戦力となる人材を育成する。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

基礎知識を体系的に学習した学生に対して、実践能力を向上させる目的で研究テーマの選定や技術指導など、演習科目を中心に企業等と連携した授業を実施する。実践的な技術指導を受けるだけでなく、技術者と直接コミュニケーションの機会を多く持つように運用する。

(3) 具体的な連携の例		
科目名	科目概要	連携企業等
卒業研究B	その時の流行のIT技術をテーマに選定し調査を行い、システムの設計・実装を行う。また学んだ技術の集大成としてシステムを構築する。企業の意見を反映してテーマを検討し、中間レビューや成果発表などで企業の評価をもらうことで実践力を育成する。	NPO法人 九州組込みソフトウェア コンソーシアム

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

教職員に対して、現在就いている職又は将来就くことが予想される職に係る職務の遂行に必要な知識又は技能等を修得させ、その遂行に必要な教職員の能力及び資質等の向上を図ることを目的とする。

専攻分野における実務に関する研修や、指導力の修得・向上のための研修を教職員の業務経験や能力、担当する授業科目や授業以外の担当業務に応じて実施し、より高度な職務を遂行するために必要な知識を修得させる。また、教育課程編成委員会などの意見を元に作成したカリキュラムを運用するために必要となる知識や技術と教員とのスキルを比較し、不足しているものを中心に研修計画を立てる。外部の教育機関が実施する研修または企業等から講師を招いての研修を受講する。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

組込みシステム技術協会 実践型 C 言語指導ブートキャンプ

② 指導力の修得・向上のための研修等

学則・学内規程研修、関連法規研修、コンプライアンス研修、インストラクションデザイン研修などを受講。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

MATLAB/Simulink によるモデルベース開発

② 指導力の修得・向上のための研修等

情報セキュリティ研修、メンタルヘルス研修、カウンセリング研修、実践行動学研修などを受講

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

本校の基本方針に基づき、学校運営が適正におこなわれているかを企業関係者、保護者、地域住民、高校関係者等の参画を得て、包括的・客観的に判定することで、学校運営の課題・改善点・方策を見出し、学校として組織的・継続的な改善を図る。また、情報を公表することにより、開かれた学校づくりをおこなう。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	・教育理念(建学の精神)・目的 ・目標、育成人材像を明文化しているか ・上記において職業教育機関として専修学校教育に必要とされる考え方や指針、内容などを盛り込んでいるか
(2) 学校運営	・学校の管理・運営体制が確立しているかどうか
(3) 教育活動	各学科の教育目標、育成人材像に向け ・カリキュラムの作成などの取り組みをしているか ・教授学習プロセスの改善への取り組みをしているか ・業界ニーズに対応した付加的教育の取り組みをしているか ・教員の資質維持や向上に向けた取り組みをしているか
(4) 学修成果	・各学科の教育目標、育成人材に向けてその達成への取り組みと評価がされているか
(5) 学生支援	・各学科の教育目標、育成人材像に向けて入学前から卒業後まで学生支援が整備され組織的に行われているか(在学時)(卒業後) ・上記以外を通じての学生支援

(6)教育環境	・各学科の教育目標、育成人材に向けて教育環境が整備・活用されているか
(7)学生の受入れ募集	・各学科の教育目標、育成人材像に向けて入学前から卒業後まで学生支援が整備され組織的に行われているか(入学前)
(8)財務	・中長期的に学校の財務基盤は安定しているか ・予算収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ・資産管理は適切におこなわれているか ・会計監査が適切におこなわれているか ・財務情報の公開の体制はできているか
(9)法令等の遵守	・各学科の教育目標、育成人材像に向けて自己点検・評価活動の実施体制が確立して改革・改善のためのシステム構築がされているか
(10)社会貢献・地域貢献	・意図的・計画的・組織的に社会活動への取組みが推進されているか
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

就職した学生の状況に関するお客様アンケートの結果について報告した。卒業生が企業および団体でどのような評価をもらっているのかを把握し、学校の運営改善を行っている取り組みを、今後も継続して取り組むようにコメントをいただいた。今後は、より活用出来るようにアンケート内容の改善を図り、学科の分析が可能なように形式の変更などを行い、更に有効なものとなるようにしていく事とする。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年5月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
中西 はるみ	保護者 情報工学科在校生 保護者	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	保護者
中園 晴久	卒業生 平成6年度情報経理科 卒業生	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	卒業生
浦川 美代子	自治会長 博多駅南1丁目1区 自治会長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	自治会長
大山 明	高等学校 久留米市立南筑高等学校 校長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	校長
牛島 賢二	社団法人福岡県情報サービス産業協会 株式会社 サンレイズ 企画調査委員会 委員長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	企業等委員
江添 俊明	社団法人福岡県情報サービス産業協会 産学連携チーム チーフ	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	企業等委員
土井 隆徳	社団法人福岡県情報サービス産業協会 株式会社 ジャステック 産学連携チーム	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	企業等委員
荒井 秀和	Training Center Japan 事務局長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	企業等委員
馬場 伸一	NPO法人九州組込みソフトウェアコンソーシアム 事務局長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	企業等委員
芦原 秀一	株式会社 ネットワーク応用技術研究所 取締役	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	企業等委員
高岡 宏光	三井情報株式会社 西日本営業部 西日本営業第三室 室長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	企業等委員
開 道雄	キーウェア九州株式会社 経営管理部 担当部長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	企業等委員
岡部 浩太郎	SCSK九州株式会社 ビジネスシステム部営業課 担当課長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	企業等委員
竹末 雅輝	株式会社 システナ 福岡開発センター センター長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	企業等委員
小畑 昌之	安川情報システム株式会社 ソフトウェア研究開発センター 課長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	企業等委員
金丸 浩二	グローバルブレインズ株式会社 第1システム本部 部長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	企業等委員
白根澤 信孝	ユニアデックス株式会社 九州エクセレントサービス第二統括部 システムサービス二部 部長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	企業等委員
松尾 英一	一般社団法人 日本経営協会 九州本部次長兼企画研修G課長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	企業等委員
大久保 英昭	看公税理士法人 黒岩公認会計士事務所 所長代理	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	企業等委員
中川 宏	税理士法人 西方会計 副所長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	企業等委員

小林 憲一	小林憲一税理士事務所 所長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	企業等委員
岩永 茂敏	リコージャパン株式会社 九州事業本部 九州支社 MA事業部 公共担当室 室長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	企業等委員
沖田 敏治	株式会社アイスリーラボ 代表取締役	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	企業等委員
菊本 健司	株式会社アルファクス・フード・システム マーケティング営業戦略部 部長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	企業等委員
松尾 聡子	株式会社パーズ・プランニング 代表取締役	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	企業等委員
下部 貴志	株式会社Flourish 総務部 部長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	企業等委員
堀 浩信	福岡市経済観光文化局 国際経済コンテンツ部コンテンツ振興課 課長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	企業等委員
伊藤 寛通	公益財団法人 画像情報教育振興協会 教育事業部教育推進グループセクションチーフ	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	企業等委員
今井 翔太	エピック・ゲームズ・ジャパン コミュニティー・マネージャー	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	企業等委員
今治 智隆	株式会社ヴァイス 代表取締役 社長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	企業等委員
森 りょういち	株式会社FOREST Hunting One 代表取締役 社長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	企業等委員
矢野 修作	株式会社ディーゼロ 代表取締役	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	企業等委員
小林 浩康	株式会社カラー 取締役	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生、校長等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())
公表方法: ホームページ <http://www.asojuku.ac.jp/disclosure/>
公表時期: 毎年8月

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育方針・カリキュラム・就職指導状況など学校運営に関して、企業等や高校関係者、保護者などに広く情報を提供することで、学校運営の透明性を図るとともに、本校に対する理解を深めていただくことを目的とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校概要、校訓、沿革、所在地、連絡先、魅力、麻生塾の取組
(2)各学科等の教育	定員、カリキュラム、時間割、取得可能な資格、国家試験・検定実績・内定実績
(3)教職員	教員一覧
(4)キャリア教育・実践的職業教育	就職サポート
(5)様々な教育活動・教育環境	年間行事、部活動・サークル活動
(6)学生の生活支援	学生寮、海外交流センター、プラスα制度
(7)学生納付金・修学支援	学費について、特待生制度、学費分割納入制度、兄弟姉妹・親子入学奨学金、日本学生支援機構奨学金制度
(8)学校の財務	財務情報
(9)学校評価	自己点検・評価報告書、学校関係者評価委員会評価報告書
(10)国際連携の状況	海外教育機関との連携、海外提携校、出願資格、出願書類、選考方法、入学手続き、校納金特別免除制度
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

URL: <http://www.asojuku.ac.jp>

URL: <http://www.asojuku.ac.jp/abcc/>

授業科目等の概要

(工業専門課程 組込みシステム科)平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			アルゴリズムA	基本構造、変数、配列など、アルゴリズムとデータ構造の基本を学ぶ。	1前	30		○			○		○		
○			アルゴリズムB	擬似言語表記による処理の流れを学ぶ。	1後	60		○			○		○		
○			組込みソフトウェア技術A	組込み技術スキル標準のエントリーレベルに要求される知識を学ぶ。	1前	60		○			○		○		
○			組込みソフトウェア技術B	組込みシステムに関する基礎知識をベースにしてハードウェア、ソフトウェアの応用知識を学ぶ。	1後	60		○			○		○		
○			コンピュータ基礎理論	2進数表現など、コンピュータの基礎知識を学ぶ。	1前	60		○			○			○	
○			ハードウェア／ソフトウェア	ハードウェア、ソフトウェアの基礎知識を体系的に学ぶ。	1前	60		○			○			○	
○			ネットワーク	ネットワーク技術の基礎知識を学ぶ。	1後	30		○			○		○		
○			自動車構造入門	自動車の基本的な仕組みと使用される部品名称を学ぶ。	1後	30		○			○		○		
○			電子回路	組込みソフトウェア開発者に必要な電子回路(電圧、電流、抵抗、ダイオード、コンデンサなど)の基本技術を習得する。	1後	60		○			○		○		
○			情報処理試験集中講義	春期情報処理試験対策を行なう。	1後	60		○			○		○		
○			プログラミング演習 I	組込みシステムの開発に必須であるC言語の文法の理解と主な関数の使用方法を、実習を通じて学習する。	1前	150		○			○		○		

(工業専門課程 組込みシステム科)平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			マイコン演習 I	マイコンボードによる入出力、割込みなど基本的な制御をC言語による実装演習を通して学ぶ。	1後	90		○			○		○		
○			制御ソフトウェア演習 I A	組込みシステムの動作の基本となる入力、処理、出力について車型ロボットを使用しアイコン型プログラミングを通じて学ぶ。	1前	30		○			○		○		
○			制御ソフトウェア演習 I B	組込みシステムの動作の基本となる入力、処理、出力について車型ロボットを使用しC言語プログラミングを通じて学ぶ。	1後	60		○			○		○		
○			サーバ入門	基本的なコマンド操作・開発環境の構築方法を学び、Linuxを利用した開発構築の基礎知識を学習する。	1後	30		○			○		○		
○			一般教養 I A	コンピュータエンジニアに必要な基本的な数学を学ぶ。	1前	30		○			○			○	
○			一般教養 I B	コンピュータエンジニアに必要な基本的な国語を学ぶ。	1後	30		○			○			○	
○			GCB I	グローバルで活躍できる人材を目指し、感謝というテーマを中心に学習する。	1前	16		○			○		○		
○			ビジネスソフトウェア演習 I A	Windowsの基本操作とMicrosoft Excelの使用方法を学ぶ。	1前	30		○			○			○	
○			ビジネスソフトウェア演習 I B	Windowsの基本操作とMicrosoft Word、Microsoft PowerPointの使用方法を学ぶ。	1後	30		○			○			○	
○			車載ソフトウェア概論	自動車に組み込まれているEUC基礎について学ぶ。	2前	28		○			○		○		
○			制御理論	機器制御の基礎となるフィードバック制御。その中でも古典的であるが基礎的な制御方法であるPID制御に焦点を当て、制御の仕組みを学習する。	2前	28		○			○		○		

(工業専門課程 組込みシステム科)平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			分析・設計モデリング	組込みシステム開発の設計段階における設計手法を学ぶ。対象製品をハード／ソフトの構造物として捉えて分析しUMLを使って図として表現する。	2前	28		○			○		○		
○			センサー／アクチュエータ	組込み製品に使用されている代表的なセンサーやアクチュエータの知識を習得する。	2後	30		○			○		○		
○			情報処理試験 春期対策ⅡA (選択必須)	春期情報処理試験対策を行なう。	2前	48		○			○		○		
○			情報処理試験 秋期対策ⅡA (選択必須)	秋期情報処理試験対策を行なう。	2前	32		○			○		○		
○			情報処理試験 秋期対策ⅡB (選択必須)	秋期情報処理試験対策を行なう。	2後	50		○			○		○		
		○	情報処理試験 春期対策ⅡB (選択)	春期情報処理試験対策を行なう。	2後	24		○			○		○		
○			マイコン演習ⅡA	マイコンボードによるLCD、ADコンバータ、タイマ機能など基本的な制御をC言語による実装演習を通して学ぶ。	2前	56		○			○		○		
○			ロボット制御演習	指定されたコースを走行する自律型ロボットのプログラミングを通して組込みソフトウェア開発技術を高める。	2前	140		○			○		○		
○			人間型ロボット演習	人間型ロボットを使用して二足歩行動作、音声会話動作のプログラミングを行う。	2前	56		○			○		○		
○			車載ソフトウェア開発演習	自動車業界の開発標準であるAUTOSARに準拠した開発手法を実践的に学ぶ。	2後	60		○			○		○		
○			モデル駆動開発演習	自動車業界のソフトウェア開発に使用されるモデルベース型開発手法を実践的に学ぶ。	2後	60		○			○		○		

(工業専門課程 組込みシステム科)平成29年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			マイコン演習ⅡB	リアルタイムOSであるITRON(トロン)の仕組み、仕様を理解する。ITRON4.0仕様のサービスコールを実装したプログラミングを行う。	2後	150		○			○		○		
○			コードレビュー	提示された問題を解決するプログラムを作成、実行し、題意通りにコードが作成されているかを相互レビューにより確認する。	2後	60		○			○		○		
○			一般教養ⅡA	採用試験のSPI適性試験の対策を行う。	2前	28		○			○			○	
○			一般教養ⅡB	採用試験のCAB・GAB適性試験の対策を行う。	2後	30		○			○			○	
○			就職実務ⅠA	自分の将来を考え就職に結びつける。履歴書の書き方や面接の練習なども行う。	2前	28		○			○		○		
○			就職実務ⅠB	自分の将来を考え就職に結びつける。履歴書の書き方や面接の練習なども行う。	2後	60		○			○		○		
○			GCBⅡ	グローバルで活躍できる人材を目指し、志というテーマを中心に学習する。	2前	16		○			○		○		
○			テスト技法	ソフトウェアテストにおける基本的な理論を学ぶ。テスト技法を用いた欠陥の検出方法を習得する。	3前	28		○			○		○		
		○	情報処理試験 春期対策ⅢA (選択)	春期情報処理試験対策を行なう。	3前	48		○			○		○		
		○	情報処理試験 秋期対策ⅢA (選択)	秋期情報処理試験対策を行なう。	3前	32		○			○		○		
		○	情報処理試験 秋期対策ⅢB (選択)	秋期情報処理試験対策を行なう。	3後	50		○			○		○		

(工業専門課程 組込みシステム科)平成29年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
		○	情報処理試験 春期対策ⅢB (選択)	春期情報処理試験対策を行なう。	3 後	24		○			○		○		
○			マイコン演習Ⅲ A	小型マイコンとセンサーを組み合わせたハードウェアで動作する制御プログラムを開発する。	3 前	140			○		○		○		
○			マイコン演習Ⅲ B	小型マイコンとセンサーとインターネット通信を組み合わせたシステムを開発する。	3 後	120			○		○		○		
○			プログラミング 演習Ⅱ	C++の基礎、及び応用課題のプログラミング演習を通して応用力を習得する。	3 前	112			○		○		○		
○			組込み応用技 術A	画像認識技術の基礎を学ぶ。組込みの現場において重要な技術項目を取り上げ、マシン実習を通して技術的な理解を深める構成で行う。	3 前	56			○		○		○		
○			組込み応用技 術B	画像認識技術の応用を学ぶ。自然画像および動画を対象に、マシン実習を通して技術的な理解を深める構成で行う。	3 後	60			○		○		○		
○			組込み開発言 語A	オブジェクト指向型スクリプト言語のPythonの文法から基本的なプログラム作成方法を学ぶ。	3 前	56			○		○		○		
○			組込み開発言 語B	Python言語を用いて各種ライブラリを使った機械学習の基礎を学ぶ。	3 後	60			○		○		○		
○			卒業研究A	研究・開発テーマの企画を立案し、文書化、発表を行う。	3 前	28			○		○		○		
○			卒業研究B	研究・開発テーマに基づくシステムの設計・実装・テスト、及び作業の振り返り、評価を行う。	3 後	180			○		○		○	○	○
○			ビ ジ ネ ス マ ナー	ビジネスマナーの習得および、オフィスでの状況対応能力を身につける。	3 後	30			○		○		○		

(工業専門課程 組込みシステム科)平成29年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			就職実務Ⅱ	自分の将来を考え就職に結びつける。履歴書の書き方や面接の練習なども行う。	3前	28		○			○		○		
合計					51 科目	2892 単位時間(単位)									

※Aか※Bのいずれかを選択する

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
<ul style="list-style-type: none"> ・各学年における当該学科の指定科目をすべて履修・修得していること。 ・卒業基準検定を取得していること。 ・学年の出席率が90%以上であること。 ・学生としてふさわしい生活態度であること。 	1学年の学期区分	2 期
	1学期の授業期間	15 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。